

# 中国人の購買商品の変化

texted by 滋賀銀行 香港支店次長 山岡 剛

香港を訪れる中国人の購買力は年々高まっており、香港の観光業や小売業に大きな恩恵をもたらしている。以前は高級品を購入する団体客が多かったが、最近では安心・安全な日用品を求め、一般市民が香港を訪れている。来訪者数の増加による商業施設の混雑、マナーの悪さに対し一部の香港人の不満を招くこともあるが、ビジネスチャンスは確実に広がっており、多くの人が訪れる「駅」や「港」に小売店舗を構える日系企業も出てきた。



香港ホンナム駅発の中国本土との境界駅(羅湖・落馬洲)行きは1〜3分間隔。それでも電車は満員だ

## タイの自動車販売と生産

タイの自動車販売台数が低迷している。2012年末が申請期限だったファーストカー減税策の反動と長期化するデモが影響している。14年第一四半期は前期比45.8%減の22万4千台と、11カ月連続で前年同月を割り込んだ。特殊要因が重なったとはいえ、人口約6千万人で少子化進むタイは自動車市場が大きく拡大するとは考えにくい。

一方、生産台数も国内販売低迷により減少しているが、第一四半期は前期比28.3%減の51万7千台と販売に比べ減少率は小さい。輸出向けの生産が伸びているため、前期比0.6%増の28万7千台と生産全体の55%を占めた。一人当たりGDPが3千米ドルを超えると自動車市場が急速に拡大するといわれるが、ASEAN諸国で2番目に人口が多いフィリピンは2,790米ドル、3番目のベトナムは1,901米ドルと、その段階に近づいている。両国とも14年第一四半期の販売台数は前期比20%以上の伸びで、国内市場は着実に拡大している。

しかし生産は、両国とも国内市場の需要を満たす環境ではない。フィリピンは昨年、生産台数でベトナムに抜かれASEAN主要国で最下位となった。トヨタ自動車や三菱自動車などが現地生産の拡大を表明しているが、まだ市場を満たす規模ではない。ベトナムは第一四半期の生産台数が前期比24%増となっているが、輸入車の販売台数が前期比98%増とそれ以上に伸びている。ASEAN経済共同体など市場開放に向けた輸入拡大の動きが鮮明になっている。

タイではホンダが国内市場の低迷を理由に新工場の稼働を6カ月延期すると発表した。関係する企業にとっては厳しい状況であるが、国内市場の低迷はタイの自動車産業がASEAN地域の生産拠点へ大きく飛躍するチャンスでもある。

(しがきんアジア月報5月号より バンコク事務所 河村正弘)

販売	2013	2012	増減
タイ	1,330,672	1,436,334	-7%
インドネシア	1,229,901	1,116,212	10%
マレーシア	655,793	627,753	4%
フィリピン	181,738	156,654	16%
ベトナム	98,649	80,453	23%
シンガポール	34,111	37,247	-8%
ブルネイ	18,642	18,634	0%
合計	3,549,506	3,473,287	2%

  

生産	2013	2012	増減
タイ	2,457,057	2,453,717	0%
インドネシア	1,208,211	1,065,557	13%
マレーシア	601,407	569,620	6%
ベトナム	93,630	73,673	27%
フィリピン	79,169	75,143	5%
合計	4,439,474	4,237,980	5%

出典：ASEAN自動車連盟

## 中国本土からの旅行者拡大の経緯

新型肺炎(SARS)の影響で景気が落ち込んでいた香港経済への刺激策として、香港政府は2003年に中国からの個人旅行を解禁した。その結果、03年に約850万人だった中国からの来訪者数は昨年4千万人を超え、香港の観光業や小売業は大いにその恩恵を受けている。

一方で、東京都の約半分の面積しかない香港で、来訪者急増による

商業施設や道路の混雑、物価上昇などが一部の香港人の対中感情悪化の一因となっており、香港中心部の繁華街で反中デモが起こることもある。

香港政府は、旅行客数の増加を制限する対応策として、電車等の陸路で中国から香港へ入境する場合、香港居住者以外から100香港ドル(約1300円)を徴収する案を検討しているが、恩恵を受けている小売業界等からの反発は必至であり、実現は難しいだろう。

## 購入商品の変化 ～高級商品から一般商品へ

香港政府が公表している来訪者数には、1日に3〜5回程度往来している人も含まれているようだ。電車で行き来ができるアクセスの良さ中国にはない商品、特に「食に対する信頼性」から、中国で根強い人気のある「メイドインチャイナ以外の商品」を求め、毎日多くの中国人が香港を訪れる。富裕者層が香港で高級品を購入する従来のトレ

ンドは衰えていないが、一般市民が安心・安全な粉ミルクや薬、菓子等の日用品を購入するケースが増加している。

## 日系企業のチャンス

九龍半島にあるホンナム駅。電車で香港と隣接する広東省の深圳、広州との玄関口だ。その駅に今年、日本の洋菓子店がオープンした。商品は全て日本国内で生産したものを輸入しており、店舗は高級感が感じられる。ターゲットは中国からの旅行者だという。ホンナム駅は陸路で帰る多くの中国人が訪れるところであり、商品を手にしてもらうにはうってつけの場所である。

ホンナム駅で日系商品を持っていた中国人旅行者に聞いてみると、お目当ての日系商品は化粧品や食品とのこと。特に一昨年、香港であまりの売れ行きのため品切れになったヤクルトは今も人気の商品

の一つだ。

特に「日本ブランド」の食品は中国人にとって人気の高いブランド商品の一つ。ただ、日本から商品を輸出しても、知名度の低い商品の場合すぐには売れない可能性が高い。日本国内である程度の商品認知度を高めた上で、投入するほうがより良い効果が得られるであろう。

従来の百貨店や繁華街での販売から、香港と中国本土とを結ぶ駅や港で日本の商品を提案する店舗が増加している。比較的海外でも知名度のある洋菓子店の売れ行きに注目したい。

香港への旅行客数 単位:万人			
国	2012年	2013年	増加率
1 中国本土	3,491	4,074	16.7%
2 台湾	208	210	1.0%
3 アメリカ	118	110	-6.8%
4 韓国	107	108	0.9%
5 日本	125	105	-16.0%
その他	812	822	1.2%
合計	4,861	5,429	11.7%
(中国本土除く合計)	1,370	1,355	-1.1%

出典：香港政府観光局



香港で買い物した中国人が帰りの電車を待つ



駅にある日本の洋菓子店。中国人への販売が好調だ